

旅人（バックパッカー）が書き、旅人が読む、
旅人のための旅ライフフリーペーパーマガジン

Brali Vol.14





Khaosan Tokyo Guest House

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

日本で海外の気分を楽しめる!

カオサン東京ゲストハウスは、東京、京都、福岡、別府に計8つの店舗を展開しています。
国際交流をしたい! 安く快適に泊まりたい! 楽しくにぎやかに滞在したい方!
観光、就職活動、一人旅等、あらゆるお客様に満足していただける宿泊施設です。



TOKYO

NINJA

1泊/2200円~

ORIGINAL

1泊/2000円~

SAMURAI

1泊/2500円~

ANNEX & SMILE

1泊/2000円~

KABUKI

1泊/3000円~

KYOTO

1泊/2000円~

BEPPU

1泊/2000円~

FUKUOKA

1泊/2400円~

THIS IS YOUR BACKPACKER

旅人の数だけ違った
スタイルがあっという。

これはあなたのバックパッカーライフです。

LIFE.

バックパッカーで旅をするって特別なことですか？あなたは旅バカですか？もしあなたがクローゼットの中にあるバックパックに想いを馳せるなら「旅バカ」です。苦楽を共にしてきた数々の相棒を捨てられずにいるなら、間違いなく「旅バカ」です。

残念なことにそれは **不治の病** です。一度目は衝撃の印度 2度目はうまくやれるナマステ 3度目はもう病気です！

バックパッカーの大好物, 最北端, 最南端, 最西端, 最東端, 赤道, 南北回帰線, 洞窟, 離島, そして僻地, 辺境, 秘境, 越境…

越境！ バックパッカーの妖しい与太話に散りばめられた真実、そして名もなき旅人たちが残し受け継いできた、

「金の北米、女の南米、**数々のバックパッカー名言&格言。** 耐えてアフリカ、歴史のアジア、何もないのがヨーロッパ、

問題外のオセアニア」放浪 流浪 徘徊 ジプシー ノマド ボヘミアン etc... 行った国の数はそんなに大切なのか？ 世界一周って何ですか？ あのガイドブックの裏話。

J-Backpacker styleの系譜。

それは『何でも見てやろう』から始まった。結論のでないあの愛しきバックパッカー論の数々。「日本人宿/ガイドブック/節約ピンボー旅/夜のパトロール」カニ族全盛期から時は刻まれ、いまやバックパッカー3.0 爺ちゃんも両親も旅人の3世代目バックパッカー出現！

スマホ, Wi-Fi, LCC, ナチュラルボーン…デジタルネイティブで、ソーシャル・ヒッピーな

こちら側の世界へようこそ。 **旅は変わっちゃまったのかい？** デジモンバックパッカーが闊歩する時代の到来。

バックパッカー新聞、 旅の環境や手法が変わっても、やっぱり旅は人との出逢いだ、やっぱり人が断然オモシロイ。

創刊です。 わたしたちは、そんなバックパッカー現役OB/OG、そしてこれからバックパックを担いで旅に出る仲間のベースキャンプとなりたい。

Coming soon. 『バックパッカー新聞』 Published By Japan Backpackers Link 発行人 編集長 向井通浩

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>

<広告>



MAISON D`HOTE AMANDE CHEZ NORIKO

「モロッコのグランド
キャニオン」と呼ばれ
るトドラ渓谷までのん
びり徒歩30分で行ける
日本人が経営するアッ
トホームな宿。
バルコニーからは一枚
岩が眺められ、手前の
畑にはアーモンドの
木々が見え春にはサ
クラのような花が咲き
花吹雪を楽しむことが
できる。

◆料金◆

宿泊代 70DH
朝食 20DH
夕食 50DH
洗濯機使用料 10DH

◆設備◆

部屋数4室
サロン
大きめのバルコニー
Wi-Fi
シャワー室・トイレ共同

日本食もO・K

家庭的な
小さな宿



◆住所・お問い合わせ◆

住所

Ait Ousalene Tizgui TINGHIR 45800 MARO

電話番号

+212(0)6 7040 4369

+212(0)6 5319 5219

モロッコ国内からは0653195219

E-MAIL

amande@hotmail.co.jp

詳しくはホームページで

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com>



MOROCCO
TODRA GORGE

Instituto Cultural Oaxaca

El día de muertos 2013



メキシコ オアハカスペイン語語学学校

Oaxacaと死者の日

メキシコで毎年11月1日と2日に祝われる死者の日、Día de muertosはキリスト教とメキシコ先史伝統の融合の一例であり、メキシコで最もカラフルで由緒ある祝日の一つとして非常に有名です。死者の日はメキシコ全土で祝われますが、中でもオアハカは先祖の帰還を伝統的かつ華やかに祝うことで有名です。



2013年死者の日コース

当校では2013年、10月21日~11月の1日の2週間死者の日コースを開催致します。

この時期に合わせた特別な文化研修クラスも開講され、生徒様向けにパレードを開催し、死者の日のイベントにご自身も参加して頂ける様になっております。



様々なイベント

当校では死者の日コースの期間中、皆様に多くのことを体験して頂くため様々なイベントを企画しております。

コンパルサ、マスク作り

コンパルサとは死者の日の前夜祭に行われるパレードのことで、皆さん死者の日にちなんだマスクや仮装をしてメスカルを飲みながら街を飲み歩きます。当校でもこのパレードを開催し、生徒の皆様にはこの時期特別の文化研修、マスク作りでご自信オリジナルのマスクを作り、参加して頂けます。



オプションツアー

当校では毎年死者の日に彩られる集落を厳選してオプションツアーを開催しております。毎年在籍するほぼ全ての生徒様からご参加頂ける程の人気で当校の死者の日期間の目玉となっております。



皆様のご来校お待ちしております。お問い合わせは
info.jp@icomexico.com 八木までご連絡下さい。

CONTENTS

- 旅人からの伝言 特集「ロシア」改め「懐かしきソ連」
- 旅先の変な日本語
- エッセイ「旅トキドキ・・・」
- テーマ「タベルトイウコト」
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 連載ミャンマーレポート「一人旅卒業後、ミャンマー留学」
- 旅で使えるスマホアプリ
- 自炊派の手料理「水を使わないカルボナーラ」
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 作者・情報提供者一覧
- 編集後記
- 次号予告
- 記事募集

特集「ロシア」改め



「懐かしきソ連」



今回このコーナーは筆者の
ノートやメモや備忘録などを
編集しました。



1982年あたりってどんな年だったか？

記事および写真提供

岡本光彰

1956年生まれ。旅の師匠はスナフキン。

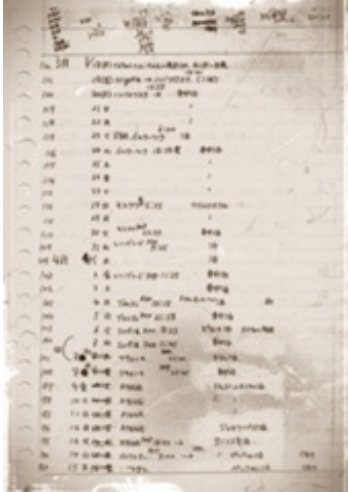
素敵なのひとりぼっちを味わうために、またいつか何処かへ行くかも...それとも何処へも行かないかも...どっちでもいい。なんでもない普通の日々も結構楽しいし。

- ・ パソコンなかった（日本初のワープロが発売された）。
※IBM PCは1981年に発売された。Mac（Macintosh 9のデビューは1984年）
- ・ 携帯電話なかった（車載電話機＝自動車電話というものはあったが、
通信費は固定電話の数十倍）
※電話は自宅の固定電話（黒電話）をもっぱら使用。
※公衆電話は、恋人との親密な話をするときによく使った。
ってか、ラブレターのやり取りまあまあしていたよ。
肉筆ならではの温かみがあり、ちょこっと手書きの挿絵を交えたり、
で楽しかったよ。
- ・ CDプレーヤーなかった（1982年10月にソニーが世界初のCDプレーヤーを発売）
※ウォークマン（1979年発売開始）というソニーの携帯型カセットプレーヤーが大ヒットしていた。
※ウォークマンは音楽を携帯し気軽に楽しむという新しい文化を創造した。
- ・ YMO（Yellow Magic Orchestra）が、日本の音楽シーンに変革をもたらしていた。
※僕もシンセサイザーやドラムマシンをいじっていた。
- ・ 古き良き、でもダサかった“昭和のファッション”から一皮剥けたお洒落が台頭しはじめていた。
80年代ファッションは、いまのファッションと通じるものが多いんちゃうか？
- ・ ファミリーレストラン（1970年に登場）が全盛期を迎えつつあった。
が、下町では個人経営の飲食店がまだまだ頑張っていた。
- ・ 街中にゲームセンターが乱立していた。
- ・ ノーパン喫茶、なんちゅうものも流行っていた。
- ・ 500円玉硬貨が登場（1982年4月）。
※僕がこの新硬貨を初めて見て手にしたのは、
オランダはアムステルダムのスキッポール空港。
人生初の海外旅行から帰国するため、外貨を日本円に両替したときであった。
- ・ バブル経済（1986年～1990年）が日本を浮かれさせる前夜と言える時代。
僕が当時二十代後半だったこともあるが、

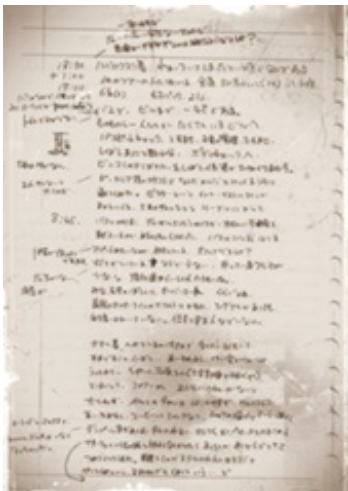
ビジネスも遊びも上昇志向の時代であったような気がする。

その他のできごと

ホテルニュージャパン火災 日本航空350便墜落事故 500円硬貨発行 フォークランド紛争勃発
「カローラII」を発売 東北新幹線大宮駅 - 盛岡駅間開業 たばこ新ブランド「キャスター」
『森田一義アワー 笑っていいとも!』放送開始 上越新幹線大宮駅 - 新潟駅間開業 『E.T.』が
日本で公開 カード式公衆電話、テレホンカード発売



- 3 / 19 (金) 新潟発→ハバロフスク 18 : 40着 (1泊)
 - / 20 (土) ハバロフスク 13 : 55発→車中泊
 - / 21 (日) 車中泊
 - / 22 (月) 車中泊
 - / 23 (火) イルクーツク 6 : 00着 (1泊)
 - / 24 (水) イルクーツク 18 : 28発→車中泊
 - / 25 (木) 車中泊
 - / 26 (金) 車中泊
 - / 27 (土) 車中泊
 - / 28 (日) モスクワ 5 : 35着 (ウクライナホテル泊)
 - / 29 (月) (ウクライナホテル泊)
 - / 30 (火) モスクワ 23 : 55発→車中泊
 - / 31 (水) レニングラード 8 : 25着 (泊)
 - 4 / 1 (木) (泊)
 - / 2 (金) レニングラード 11 : 25発→車中泊
 - / 3 (土) 陸路国境越えブカレストへ 車中泊
- その後ヨーロッパ諸国を数ヶ月放浪・・・。



19/03/1982

ハバロフスク着。

物々しい人達がたくさんいるビルへ。

パスポートチェックを済ませ、お金の管理を済ませ、しばし待つこと数十分、ボディーチェックへ。

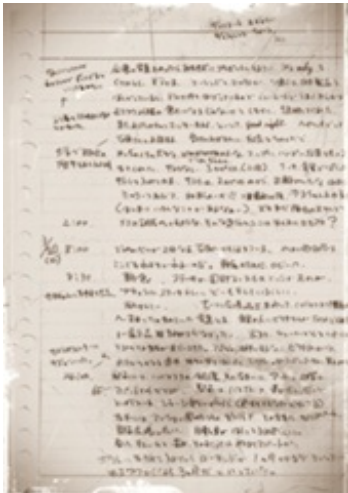
ビッコミのオリジナルをしばし係員がひねくりまわす。が、ロシア語のカタコトでなんだかんだと言ってるうちに通してくれた。ビクターと言うインツェリストの人が迎えに来る。

5ドルのキャッシュをルーブルに替えてバスに乗り込む。ディーゼルエンジンのバスなのか、オイルに不凍液を混ぜているのか、めちゃくちゃ臭かった。

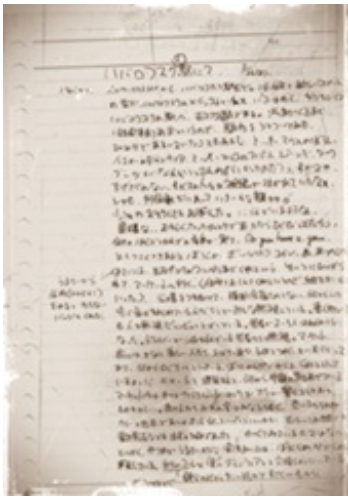
バスはひたすら走る。アパートみたいなのが林立している。オフィスだろうか？ 灯りがついている。窓が少ない。走っている車が少ない。帰社途中らしい人達もいた。

みな毛皮の帽子にオーバーコート。くらいなあ。

路面のセンターラインのホワイトは擦れ、シグナルがあっても白線は引いていない。信号を守る人などいない。



ローランドとマルクスが、ソ連人は日本製品を欲しがっているし、ドルか円を欲しがっているので、いいレートでうまく替えれば、モスクワ以降の食費になるじゃないかと、しきりに説明してくれた。



20/03/1982

ハバロフスク駅にて

マーケット前には、かなり貧しい人達、子供を連れたおばさん連中が群がっており、何やら口々に言っている。帽子やらペンやらをくれと言っているようだ。

「ニエツ」を連発すると、何やら非難の声を上げている。

マーケット内は、人がたくさん居るにはいたが、ポリが警らをしており、物々しい。

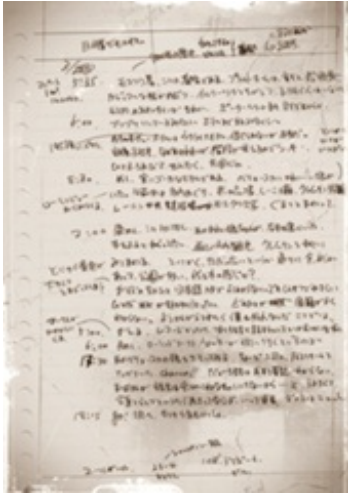
売り子たち以外の客はみな振り向く。売り子たちのみカラーの世界であとは、ホント何て言ったらいいのか、モノトーンの世界である。



また例のおばさん連中がやって来て、子供をダシにして、帽子を特にせがまれた（どうやら、この子たちが寒がっていると言っているようだ）。

その時気が付いたのだが、おばさんの手はあかぎれだらけだった。血がにじんでいた。顔つきも、いわゆるエリートロシア人とは違う少数民族のようだ。

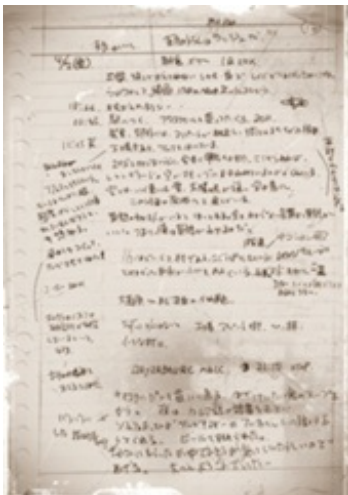




28/03/1982

3 / 28 (日) 5 : 35

モスクワ着。ここは都会である。プラットフォームは割と殺風景。カジュアルな服が目立つ。イルカーツクと違って、振り向く人はいない。モスクワのネオンサインがきれい。



02/04/1982

4 / 2 (金) 11 : 25 発

工場もあり、煙をはいている。

20分とかからないうちに、完全に郊外へと出た。ここから見れば、レニングラードの空がスモッグに覆われているのがよくわかる。

空には幾重にも雲。太陽の光が強い。空は青い。

この汽車は南西へと進んでいる。



04/04/1982

4 / 4 (日) 1 : 0 0

国境の駅に着く。

たぶんシャーシ（車台）の取換えを行ったのだと思う。列車はあっちこっちへと移動し、そのうち止まった。

兵隊が乗り込んで来た。まだ若造という感じのが、いっちゃん偉いみたい。それよりもっと偉そうなのがおばちゃんで、一言「どこへ行くのか」と聞いて、行ってしまった。

荷物は、かなり厳重に調べられた。

バッグをかなり丁寧に、そしてガイドブックなんかを必死で見っていた。デイパックや洗面道具入れは詳しく調べない。アホめ!!

トラベラーズチェックとドルの現金を調べられた。が、ダウンベストなんかは調べなかった。座ってデッキで煙草を吸っていると、あの若造が来て自分も煙草を吸い始めた。年上らしいが下士官らしいのが、おとなしく隣にいた。

列車は動き、移動。つまり、初めて陸路の国境を越えたわけである。

物々しいなあ。



日本語



旅先の

海外でみかける変な日本語。看板やメニューをはじめ、商品名やTシャツ、チラシに至るまで。笑わせてくれたり、困惑させられたり。そんな変な日本語をTwitterなどで募集してみました。



「活かにスティック」の意味が分かりません。いや、マレーシアはそんなに活力不足なんですか？クアラルンプール Photo By Hiro

変



すいません。もう何を表現したいのかもわかりません。

台湾 台北

変



こちらも、日本デザインの雰囲気は出てるんすが、、、意味わからないっす。

台湾 台北



鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84（100M）
美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティ、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

今回、働いている人に的を絞ってみました。



インド、チベット文化圏、ザンスカールのカルシャ村。



標高約3000M。草木が育たない高地の畑。

そんな中、作物を育てるのも大変そうだし、
育つ種類に限られるはず。

そして、ホームステイ先の料理がメチャまずかった。

日本やタイの料理のおいしさを
改めて確認しました。

ホームステイ先のおじさんは、

南インドで食べた魚が凄く美味しかったと語ってくれた。
俺としては、南インドの魚は少し泥臭くてイマイチだったけど、
まずい物を食べ慣れた人にとってはごちそうなんだね。
マクドナルドとか食べさせてあげたい!!

インド、スピティ、チトクル。



機織り。

日本じゃ見かけないよね？

ちなみにこの写真、みつまさんが撮りました。

みつまさんとのやりとりはMIXI日記の日食バナラシ編を見てね。(全40話)

ナコ村。



こちらも機織り。

彼女らの家族に英語ができる人が居て、津波の事を聞かれました。

ネパール、ポカラ。



さわやかなオジさん。

今は人間の手で収穫してるけど、あと10年もすれば機械になるのかな。

ネパール、バクタプル。



土器を作る主婦達。

ちなみにこの土器、使い捨てです。

写真撮ってたら彼女達にお金せびられた。

(インド、ネパールでは、1日3回はマネーマネー！と言われました)

ネパールでは、貧しい人達よりも、裕福層の人達とよくつるみました。

友達になる人は何故かカーストの高い、裕福な人たちばかりでした。

なんでだろと考えたら.....、

裕福層の人は、対等な立場で接してくれるし、

お金目当てじゃなくて、

外国人の俺に興味があって近づいて来てるんだなって。

探り合いが無い分、少し気が楽でした。

騙される事多かったもんなー。

でもこれも.....、

裕福層とばかりつるんでしまった俺は、

ネパールのカースト制度に

染まってしまったのかもしれない。そう考えると.....、何とも言えない気持ちになりました。

ミャンマー、カックー遺跡。



古い遺跡を修復工事している所。

修復工事って、一步間違えば遺跡破壊だと思ってしまう。

この写真の彼らに関しては全く問題ないと思うけど.....。

修復工事って.....、遺跡を綺麗にし、通路を整え、壁画を書き直す。それをすれば綺麗な遺跡に戻るし、観光客も増える。

けど.....

先住民が書いた壁画を、やる気のない若者が音楽を聞きながら、ペンキでペタペタと雑に壁画をなぞっているのを見て、そのままの状態に残して欲しいとココロの底から思いました。

ネパール、カトマンドゥー。



首都カトマンの路上で野菜を売る少女。いくらかの小銭位はゲットできるのだろう。

インド、デリーのメインバザール。



安くて味はまあまあな定食屋。

右はクレープを作っている所。

ちなみに、インドはお尻を手で拭きます。

そしてレストランのシェフはその手で野菜を切り、ナンを素手で触ります。

なので赤痢菌がはびこります。赤痢は人の便を介して感染るので、旅人はみなインドで、赤痢になってしまうのです。

俺の相方みつまさん、赤痢に倒れ、入院2週間。誰かの少量の便を食したのだろうか？ 笑ちーん。

ミャンマー、カックー遺跡周辺。



家畜は財産です。

つづく

テーマ 「タベルトイウコト」

テーマ 「タベルトイウコト」

大谷 浩則

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。

旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ～実況！旅人アワー～

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:[@taniwheellie](https://twitter.com/taniwheellie)

旅先の食事での思い出深い話や、旅先で考えさせられた食べるということ、社会問題としての食料廃棄や貧困問題まで。

「辺境の地を歩くことで感じた食文化」

つい最近感じた「食」に対する感情をお伝えする。

単刀直入に言おう。

私の「食」に対する意識はとても薄い。栄養価が良ければ、特にこだわりはない。体調不良さえ起こさなければそれでいい。

こんな思考は、私が究極的に腹が弱い事に起因している事くらいは容易に考えがつく。

普段旅をしても私にとって「食」というのは「生きるための手段」であり、「その日を凌げればそれでいい」のだ。

そんな偏屈な考え方の持ち主が「食」について考えるきっかけになったのが、現在私が旅しているザンスカール。

ここで14泊15日のトレッキングを敢行した。ホームステイ（以下HS）をしながら15日間歩き通した。

ザンスカールはインド北部の「チベット仏教圏」。周りを4、5千メートル級の山々に囲まれた辺境の地。

外界に通じる道は1本しかなく、冬季は凍結のため隔離される非常に厳しい地だ。

ザンスカールトレッキングはトレッカーの憧れの地であり、壮大な風景と山間にある村々への訪問が楽しみの一つである。

一日数時間（多いときには10時間以上）、標高4千メートルを越えるような地を歩いた後の楽しみは、なんといってもHSの食事だ。

疲弊した体は食べ物を要求する。境地だった。

ただ、ここはザンスカール。食べ物の種類は限られている。村民はほぼ「自給自足」の生活を

しており、家の周りの小さな畑から毎日山草を取り、調理している。

言うておくが肉など滅多に食せない。（メインは羊肉だが高級かつ、数が少ない。冠婚葬祭等でないと厳しい。ましてや単なるHS旅人が口にするなんて不可）卵1つですら高級食材である。鶏を飼う生活をしている人は少なく、10キロほど（その間に峠を何度も越える）離れた少し大きな村から主人が買ってくるのである。

贅沢な食事は期待できないのである。

10泊以上HSしたなか、肉を食べた事は0。

晩ご飯は毎日ダールカレーないし、トゥクパ（チベット風うどん）これに野菜漬けが加わる。はっきり言って非常に「質素」だ。精進料理といって紹介されてもおかしくないだろう。

しかし、過酷なトレッキングをしている以上贅沢は言ってもらえない。とにかく食べなければ明日長時間歩く自信はない。

腹が弱いという理由で食べ物を制限している私だが、そんな事言っている場合ではない。

当初、大抵抗があったザンスカールの現地食だが、食べてみると非常に旨いのだ。

添加物が0パーセントの優しい味。米は柔らかく、味付けも天然。一緒にでてくるチャイとの絶妙のコンビネーション。

こんな感覚は初めてだった。

現地食に対してここまで「おいしい」と思う事など3年以上旅していて初めてだった。

もちろん過酷なトレッキングのせいで猛烈に食に餓えていた、ということもあったとは思う。しかし、普段の自分ならビスケットやチップスなどでごまかしていたら。

当たり前だが、HS先によって出てくるダールカレーの味も違う。僕好みのテイストのHS先が見つかったときは最高だ。

自分がここまで「食」に敏感になったことはなかった。もし、日本で生活していたら「家庭ごとにおける味の差」とか気にしなかったら。

もし、ある程度の都会にいたら「お腹を壊さないため」とか理由をつけてチェーン店や外国人向けレストランに行っていたら。

また、あまりにも僕がガツガツとご飯を食べるからだろうか？ おいしそうに食べるからだろうか？ HS先のご夫婦も色々楽しそうに話しかけてくる。

トレッキングガイドを通じて英語→ヒンディー語での会話も進む。

なんか、ドラマ等でみるような「温かい」食事だった。

2日だけ朝ご飯にオムレツが出たときがあった。前述の貴重な品だ。

単に卵を割って焼いただけのオムレツ。このオムレツがいつもと比較できないくらい旨かったのは、卵の貴重さを分かっていたからだろうか？ 久しぶりに食べるからだろうか？

限られた食材で生活する事は非常に厳しい事だ。

ザンスカールの人にとってそれは日常かもしれない。

しかし、先進国で甘ったれた食生活をしている外国人にとって（少なくとも私にとって）、ザンスカールでの食生活は新鮮な気持ちを与えてくれた事は間違いない。

こういう発見があるから旅をやめられないのだ。



インドというイジゲン その3

儀：おい功甫どこいくんだ??

功：ト、トイレ……。

儀：また?? 今さっき行ったばかりじゃないか！ 大丈夫か??

功：うん……たぶん大丈夫……。

儀：思い当たる節はあるか??

功：うーん……怪しいパイヤラッシー、変な臭いがしたタマネギ、黄色く変色した米、よくわからないものが入っていたカレー、あとは……。

儀：変なもん食い過ぎ！（笑）

功：いや、インドですから。変なものしか毎日食ってないよ。基本マサラ味だし、3日目にしてもうきつい。……ん、やっぱだめだ……今日は一日安静にさせてくれ。

儀：もちろん。おれもマケドニア、グルジア、アゼルバイジャンと食中毒で死ぬかと思ったからね。休息して嵐が過ぎ去るのを待つしかない。

功：ありがとう。ふう……とりあえず寝るか……弱ったな……、トイレに住みたい気分だ。

……んー……。

……それにしてもインドには参ったな。

……掛け布団なんか臭いな……。

……敷き布団なんか冷たいな……。

……冷たい？ ……おかしいな、さっきまで温かかったのにな……。

……なんか湿ってる気もする……湿ってる……臭い……ん？

はっ!!!

……う、うんこか?!

落ち着け功甫。大丈夫だ。ゆっくりと……被害を最小限に食い止めるんだ。そう、少しケツを持ち上げてゆっくりとトイレへ行くんだ。……よし、うまくいったぞ。問題はシートだ…

…おうっ?! なんということだ! シーツまでうんこは到達していない! 助かった……犠牲になったのはパンツだけだ。よし、これで気持ちよくまた眠れる。

儀：んー……功甫? どうした?

功：はっ?! いや、何でもない。……ちょっと……うんこをもらっただけだ。

儀：ああ、うんこもらしただけか……なーんだ……ってうんこもらしたのか?! まじか!

功：前回のお話でも述べた通り、インドの衛生環境の悪さは旅の中でも随一。まんまとその餌食となった訳です。

儀：まあ、デトックスだよデトックス。おれも何度もデトックスしているから。大丈夫。

功：うん、大分良くなったよ。にしてもインド、はんばねーな。

儀：けど、おかげでもう君の腹はインド人だよ。安心して、何でも食える。羨ましい。



功：そうだな。お腹はインド人化したけど、性格はインド人化したくない。

儀：間違いない。だってウソばかりだもん。さっきもコーラ買おうと思ったら5000円って言われたぞ。アホか! 50円だろ! 知ってるぞ! って言ってやったけど。

功：ただ意外と素直な彼らは、こちらがウソに気づくと、うん、ウソだよ、ごめん。1000円。って大幅値下げするよね。それでも高いけど。

儀：で、ローカル人並みの価格までなんとか戦って下げても、おつりをもらうときにもう一波乱。おつりが返ってこない。

功：飯食うときも細心の注意が必要だよな。基本的に田舎の飯屋（カレー専門店）は値段がないから、必ず食う前に値段を訊いておかないと。

儀：じゃないと後からアホみたいな額を請求してくるもんな!

功：不思議なのはさ、インドの子どもは、本当に無邪気で、可愛いんだ。まっすぐ、キラキラした目で僕たちをみる。そしてキャッキャッキャいいながら、最高の笑顔をこちらに向けてくれる。

儀：天使だよな。白人の子どももお人形さんみたいですよごくかわいいけど、インド人も違う魅力がある。

功：なんだろう、野性的なかわいさ? 人間の本能をくすぐるタイプ。



儀：でもね。それがあつた時を境に嘘つきインド人になってしまう。それがいつなのかは永遠の謎。

功：気になり過ぎて夜しか眠れないわ!

儀：や、普通だし！ あ、インドなら普通じゃないか。

功：ただ、こうも考えられるよね。子どものまんま、インド人は大人になる。

儀：つまり頭脳は子ども、身体は大人。

功：つまりになってない。（笑）ようは、本能のままに生きている。好きなことはやるし、嫌なことはやらない。欲しいと思ったら持っていき、うんこしたくなったらどこでもする。



儀：だから、大人もすごく単純だよ。この前のバナナのときもさ！

功：ああ、ど田舎の村でバナナを屋台で買ったときの話か。あれは面白かったね。

儀：ただ普通にバナナ買っただけなのに、みるみるバナナを買う僕たちの周りをインド人たちが囲んでいく。

功：そして僕たちがお金を払ってバナナを受け取ると一斉に

「うお～～！ あいつらバナナ買ったよー」

儀：そして僕たちがバナナを食べた日にあ、拍手喝采。あいつらバナナ食ってるよー！ って。

功：100人くらい取り囲んでたよね。バナナぐらい静かに食わせろー！ って言いたかった。

儀：芸能人の気持ちがちよっとだけわかった気がする。

功：基本的にお金が絡まないと、インド人はめっちゃいいやつらだよ。

儀：すっごい気まぐれだけどね。憎めない。

功：癖になる。

儀：好き。

功：おまえ、それなんか意味違ってきてないか？（笑）

儀：まあ帰国して北インド古典音楽研究しているくらいだからね。

功：あ、そうか。いつか田澤がインド人の奥さんを連れてくるのを楽しみにしてるよ。

儀：いいとも！

つづく。

Connection of the Children

<http://coccococ.web.fc2.com>

田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国大大学院保健体育科専攻。ユーラシア大陸を横断後、ロングディスタンストライアスロン世界選手権出場。人のため、地球のために。ワクワクすることを。一本の糸で世界の子どもをつなぐ旅プロジェクト企画中。

加藤功甫 田澤儀高 共著

ユーラシア大陸横断自転車旅 2万キロの旅

20,000km Bicycle Trip Across The Eurasian Continent

加藤功甫 / 田澤儀高 共著

サバイバルな自転車の旅は
奇跡の連続!!

11月
31日
20,194km
の旅!

ホルトガルから日本へ
トライアスロンを楽しむ
大学院生2人が繰り広げる

十一月、31カ国、20000
kmのユーラシア大陸横断の旅
は奇跡の連続。
その中で実施してきた世界の
子どもを繋げるプロジェクト。
1本の糸で世界の子どもを繋
いだ結果は…



小説Braviに連載中の彼らが成し遂げた長い道のり。ぜひご覧ください。



yukkichalk

ビール+鯖+笑い=Happyな東京人。

教師→バリスタ→看板描き→OL後、毎年訪問でハマリすぎたミャンマーに留学中。

<http://blog.goo.ne.jp/yukkichalk>

ここヤンゴンでも、だいぶ日本人が増えてきました。若い駐在員の方も多く、日本人女性もけっこういます。

今回は、ヤンゴンに住む日本人女子ならではの視線でミャンマー報告。

あくまでもミャンマークオリティですので、温かい目で見届けていただければと思います。

まずは、ネイルサロン。

日本では、高すぎてなかなか行けませんでした。ミャンマーは安い！

3000チャット（約300円）～ネイルアートを楽しめます。ただ、安すぎると終了と同時に慌しく店内を出ることになるので、あまりお勧めできません。

最近よく行くのが、『Nail Beauty&Hair Saloon SPICE GIRLS』。



マッサージチェアに座りながら、フットバス→角質取り→爪のお手入れ→ペディキュア。マニキュアもお願いするとスタッフ2名体制で対応してくれます。

見本や本は店内にたくさんありますが、ミャンマー人に「おまかせ」とお願いすると大体、お花柄を書かれます。

逆を言うと、お花は書き慣れているので失敗は少ないはず。

このスタッフは、すごく無愛想だけど腕は確かな子や、フレンドリーだけど下手すぎる子など様々。私は数回通って、お気に入りの子を見つけました。観察しているとミャンマー人の常連さんからもご指名が入ってる腕も対応もバッチリな子。

写真を撮った日は、とても下手な子が担当してくれました。ジェルネイルはないので、本を見ながら必死にマネっ子します。



一生懸命なのですが、本当に下手で、最後は別のスタッフがヘルプに来たくらい。

ミャンマー人は「出来ない!」と言いません。非常にやっかいです。でも、笑っちゃうくらい下手なときは正直に言ってあげてください。言わないとそのままにされますよ!!



『SPICE GIRLS』は、両足（デザイン込）で7000チャット（約700円）ですが、OPIを使うと8000チャットになります。

ネイルの後は、日本食レストラン『梟（ふくろう）』でランチして、『Acacia Tea Salon』でお茶をするっていう、優雅な休日も過ごせるヤンゴンです。

そして、ミャンマーで洋服を買うのはなかなか難しい!

「なんでこんな所に変なマークつけちゃってんの!!」っていう、オシイ洋服なら見かけます。

さすがにジーンズでお客様のところに訪問はできず、毎日ミャンマー衣装を着て出勤しています。上は『エンジー』、下を『タメイン』と言います。

『タメイン』はマーケットなどで布を買い、スカートのように巻きますが外国人はホックなどを付けてもらったほうが安全です。街の仕立て屋さんで、2000チャット（約200円）前後でつけてくれます。

そして『エンジー』は既に出来上がってるものでもOKですが、サイズが様々なので必ず試着を

しましょう。



同じ『M』サイズでも無限です。これは、靴でも同じことが言えるので、面倒くさくても試着必須です。

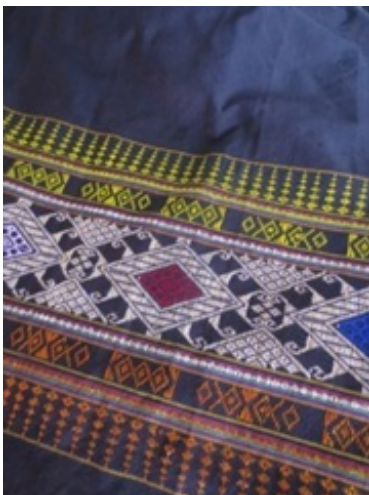
私は、気に入ったデザインがなかなか見つからないので、常連の仕立て屋さんで本を見ながらお願いします。

『タメイン』なら数日で仕上がり、『エンジー』も刺繍やビーズなどの装飾がなければ1週間くらいで完成です。



出来上がったときも、必ず試着し、自分のサイズに完璧に仕上げてもらいましょう。

ミャンマーは、州によって色々な種類の布を購入できます。





インレー湖近くのダウンジーのマーケットには、刺繍が素敵な布がたくさん売っています。同じシャン州でもティーボアのマーケットは違うテイストですし、噂によるとカチン州の布もかわいいそうです。ミャンマーに旅行に来ていた時は、正直あまりマーケットの楽しさとかがわからなかったのですが、最近はおっぱら布を見に行くのが楽しいです。

以前、他の仕立て屋さんで「パーティーに来ていくので……」とお願いをしたのに、とんでもなく安そうなものが出来上がった苦い経験があります。絵で書いても伝わらない人もいるので、自分が信用できる仕立て屋さんに出会えるのはラッキーですね。



「スタイルがよく見えるように」や、「この方があなたに似合うと思って」と、良い方向にいつも作ってくれます。発音が違うので、私のことを最初はシャン州やカチン州出身の人かと思ってたそうです。

「ミャンマーの服をいっぱい着てくれて、ありがとう！」

そう言って、私の『エンジー』や『タメイン』を丁寧に仕上げてください。

私のように、ミャンマー語がほとんど出来なくても大丈夫ですよ。短期の旅行でもネイルサロンでミャンマー女子を観察したり、伝統的衣装で観光してみてくださいね。

次号で連載最終回です。残り1号、どうぞお付き合いくださいませ。

旅で使えるスマホアプリ

文字通り旅で使えるスマートフォンのアプリの紹介です。昨今ではスマートフォンやタブレットがバックパッカーの間でも普及し、旅の途中も離せない人が増加中。旅を助けてくれる、旅をもっと面白くしてくれるアプリを紹介していきます。



子供の頃、海に浮かんでいる船を見つけて、「あの船はどこに行くのだろう」と思った経験をした事がある人は多いと思います。しかしながら、調べる方法もなく、そのうち海を航行する船を見ても何も考えない大人になっていきます。

また、旅の経験豊富な読者は、港に係留している船舶を見て「あのフェリーはどこから来たのだろう」「あの漁船はどこへ行くのだろう」と思い、さらには乗っている旅人の気持ちになり、旅に出る前のわくわくした高揚感を覚えたことがある人も多いと思います。



そんなときに活用したいアプリが、「MarineTraffic」です。

一言で言うと、世界中を航行する船舶をリアルタイムで表示するアプリです。

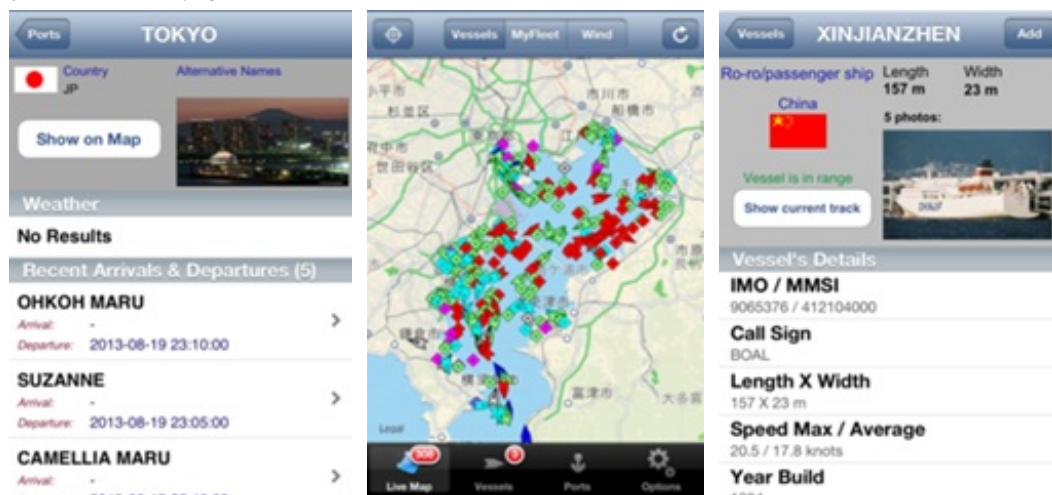
世界中の船舶のAIS(自動船舶識別装置)から送られてくる船名や位置、針路などの情報をGoogleマップ上に表示するもので、世界のあらゆる場所をどんな船が行き交っているのかを見ることができます。

(なお、AISは、300トン以上の国際航海をする船舶などに搭載が義務付けられているそうです) Brali Vol.13にて「FrightRader24」というリアルタイムで飛行機の飛行情報を表示するアプリを紹介しましたが、その船舶バージョンと言うとイメージしやすいかも知れません。

さて、船舶の情報についてですが、旅客船はもちろんのこと、タンカー、貨物船、ヨット、漁船、高速艇なんかも見られます。

さらに、リアルタイムに見られるだけでなく、以下ような詳細な船舶情報も見ることができ

ます。(船籍国、船舶種別、船舶の全長、運用状況、速力、目的地、航路、入港予定時刻、etc)
また、船舶の情報だけではなく、港の情報も見ることができます。港にどんな船舶が停泊中かなども確認できてしまいます。さらに、船舶の写真ギャラリーなどあり、船舶に関する情報は充実しています。



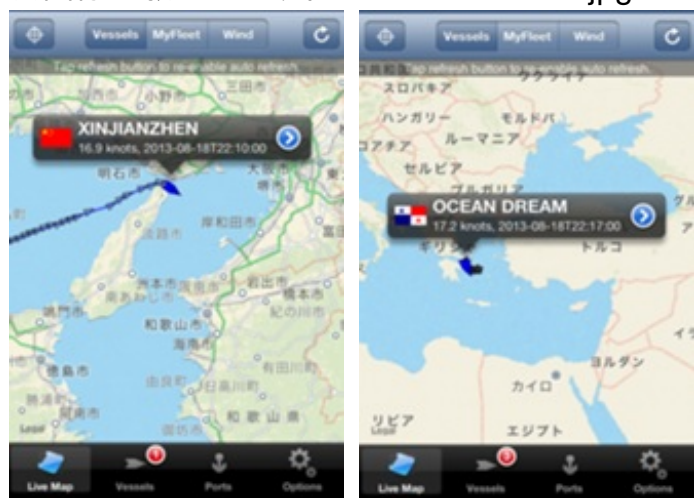
なんと、船舶の検索機能もあります。

旅人には有名な、大阪・神戸～上海をつなぐ『新鑑真号』を検索してみました。船名「XINJIANZHEN」で検索をかけると見つかりました。(検索時は、神戸付近を航海中のようでした)

★画像お願いします。→ XINJIANZHEN.jpg

商店街によく貼ってある「ピースボートツアー」の『OceanDream』号を検索してみました。船名「OCEAN DREAM」で検索をすると見つかりました。(検索時は、ギリシャを航海中のようでした)

★画像お願いします。→ OceanDream.jpg



気になる旅客船などがあれば、検索してみたら面白いと思います。

使い方次第でその可能性は無限大です。

さて、このアプリですが、iOS,androidの両方で提供されています。有料アプリですが、ユーザーレビューでも非常に高く評価されています。詳細については、以下のサイトからご覧ください。

■iTunes (iOS)

MarineTraffic Ships & Wind

<https://itunes.apple.com/us/app/marinetraffic/id563910324>

■Google Play (android)

MarineTraffic Ship Positions

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.marinetraffic.android>

■Webサイト

このWebサイトもありますので、アプリを購入する前に参考に見ても良いかと思えます。

ライブ船舶マップ

<http://www.marinetraffic.com/ais/jp/>

ワールドハッカー

元バックパッカー、現在は職業ハッカーをしています。

ブログ『World Hacks!』にて海外旅行関連の情報を毎日発信しています。

<http://bit.ly/WorldHacks>

Brali Vol.1からVol.14まで14連続記事掲載・写真提供。

自炊派の手料理「水を使わないカルボナーラ」

旅に出たら現地の料理を食すに限る。でも物価の高い街での長めの滞在となると、さすがに外食ばかりはフトコロに堪える。そんな時は自炊。簡単で安くて美味しい自炊派の手料理をご紹介します。

「水を使わないカルボナーラ」 2人分

パスタを鍋で茹でるのではなく、ソースと一緒に茹でて作るカルボナーラ。フライパン一つで手早く簡単にできますよ。



材料

- 牛乳……………900ml
- パスタ……………300g
- ベーコン……………3枚
- しめじ……………50g
- 卵……………1個
- とろけるチーズ……………2枚
- ニンニク……………1片
- オリーブオイル……………少量
- ブイヨン……………1個
- お酒……………大さじ2杯
- 塩、コショウ……………少々

作り方

①熱したフライパンにオリーブオイルを入れ、ニンニク、しめじ、ベーコンを炒めてから、牛乳、ブイヨン、お酒を入れます。

(フライパンの中が牛乳でいっぱいになり、牛乳が多すぎるのでは!? と思うかも知れませんが、最終的には蒸発するのとパスタが牛乳を吸収するので丁度良くなります。)

②煮立ってきたらパスタを投入。中火で茹でます。

(通常のお湯で茹でる時より、茹で時間は長めになります。)

③水分が少なくなり茹で上がりそうになったら、チーズを入れて塩、コショウで味を整えます。

④最後に火を止めてから、溶いた卵黄を混ぜれば完成!!

(卵は無くても大丈夫です。)



パスタに牛乳などの旨味がしみ込んで、簡単だけどおいしいですよ。パスタによっては水分の吸収率が変わるので、若干牛乳の量は調整したほうがいいです。もし、生パスタを使うのであれば、牛乳の量は減らしましょう。

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を歩んでいたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を周る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

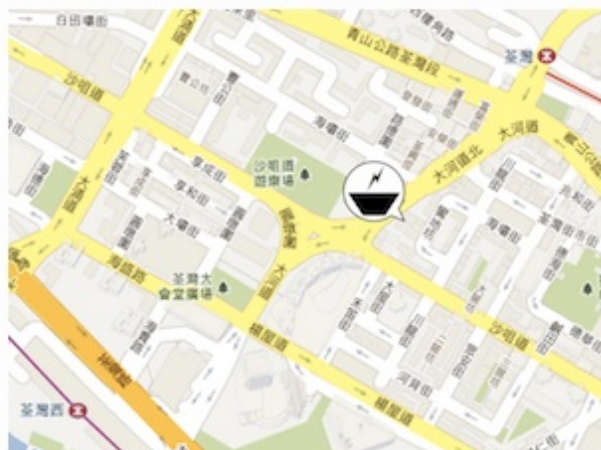
<http://ameblo.jp/worldjourney2010/>

日本人が作る本格魚介豚骨ラーメンが
香港 荃湾に登場！！！！

らーめん 台風。



本誌にレシピ掲載中の元バックパッカー料理人"谷津達観"が半年間準備を続けてきたラーメン店、いよいよ香港にオープン。まだ本格日本ラーメン店の無い下町 荃湾で、香港ラーメンブームの新たな台風の目となる！



*店長『谷津達観』に『私は旅人です』と言ったら特製叉焼サービス！！

<http://www.ramen-taifu.com>
<http://www.facebook.com/ramentaifu>
香港 荃湾 大河道81號寶成樓 地下7号舖
+852 2419 7717

今日のような雨天時には当然のように雨漏りもします。

そして、極めつけは部屋にコンセントが無いのです……。携帯、カメラ、パソコンなどの充電は一階の受付に行って頼むか、二階の共用部に一カ所だけあるので、そこまで行かねばなりません。

日本人の感覚からすると考えられないでしょうが「住めば都」とはよく言ったもので、ここに住んでもう2週間なので、慣れて愛着すらわいてきました。

それに宿と部屋自体は広く、古いですが味もあるんですよ。

共用部のみにコンセントがあることで出会いもあります。昨日は中国系イギリス人のメイちゃんとHOTなブラジル娘、コンスタンティーナと出会いました。とびきり笑顔のかわいいメイちゃん、明るくセクシーなブラジリアンダンサーのコンスタンティーナ……いろいろな国の人と交流するのは楽しいし、大切なことですね。

おや、どこからか爆音で音楽が聞こえてきます。

私の宿は、暑さ対策として天井部が網戸になっており、音などびっくりするくらい筒抜けです。

声も同時に聞こえてきますが、どうも前述のコンスタンティーナの部屋からのようです。

やれやれですね。

音楽に合わせて手拍子のような音も聞こえます。ある意味、さすがダンサーですね。

しかしながらうるさいものはうるさいし、空腹にも耐えかねるので、雨の中外に飯を食いにいきます。

外に出ると、雨の中傘もささずびしょ濡れのタイ人がたくさんいます。

なぜか楽しそうです。

濡れたくない人は建物の前などでボケーとしています。のどかです。

タイはインフラが良くないのと、インフラが追い付かない位の量の雨なので、道路は冠水し水びたしです。冠水すると、バンコク名物・渋滞が始まります。

なぜかバスも道路に止まり動きません。車掌らしき人がすまなそうな顔をして何か言ってます。おそらくエンジントラブルか何かでしょう。まあ、よくあることですね。

ちなみにこういう時はタクシーは100%ボツてくるので誰も使いません。

私の宿から道路を挟んだ向かいに、行きつけの麺屋があります。歩道上にある小さな屋台です。

麺は小麦の中華麺風のバミー、ビーフン風のセンミー、きしめん風のセンヤイの中から選べます。一杯30バーツ、日本円で120円くらいです。

ちなみにこの店は非常にマズいです。本日のスープは特に不出来でした……。

しかしなぜ私がこの店に来るのかというと、付け合わせのもやしが無料で取り放題だからです。

麺はマズいがもやしは美味い！

今日もいつも以上にもやしをわし掴みにして、麺に放り込んでもしゃもしゃと食っていると「変な東洋人がいるぞ」と皆が見に来ます。

そういう時はわざと変な顔をして食ってみせたりして、笑いをとってからコミュニケーションを図ります。

こちらが笑顔になると向こうも笑顔になる。

そんな小さいけど実は大きなことが、この旅一番の収穫なのかもしれませんね。

【タイから両親と恩師に出した手紙に加筆修正を加えたものです】

Chibirock

Sigur RosとBeirut巔頂のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

【旅日記】砂漠に死さず無事生還《インド・ジャイサルメール編》



予約必要な寝台車なのになぜこんなことに？

さすが人口10数億のインド。人間の距離感が極近なので、他人の寝台に座り込んで超話盛り上がりちゃったりとか、おっさんの膝の上におっさんが座ったりとか、温かくインド人の交流を見守りながら、あたしんところには来るなオーラを全開。



そんなほほえましい電車にて、閉まらない窓のせいで凍死しかけて砂まみれになりながら19時間、カッサカサの砂漠の町、ジャイサルメールに到着。

本当はパキスタンとかイランとか中東に行きたいのに、ビザとか国境とか大人の事情で行けないから、とりあえず一番西のほうに向かいたかったのである。

ここは砂漠に近いので、キャメルサファリという、ラクダマスター兼コック兼盛り上げ役のおっさんや子供と共に、ラクダに乗って砂漠で何泊か過ごすツアーが有名。



行きますよ。

1人で参加してレイプされたという物騒な経験談を聞いてたので、これまた縁があって出会った4人で参加。



想像以上に高い。

股、痛い。

乗り心地はとても悪い。



途中、貧乏そうな村に寄り、子供たちとたわむれるというありがちなアトラクションが用意されているが、子供にはマツタク興味が無いのでさっさと通過。

お昼ごはんは数少ない木陰にて。



こんな状況なのに、ランチもディナーもおやつもチャイも、レトルトとかインスタントじゃなくてちゃんとその都度作ってくれる。チャパティーなんて粉からこねてるもの。「これはパキスタンのチャパティーだから、作るところを写真に撮っちゃいけない」

とか、奥のおっさんの真顔で言われたら、信じるじゃんね。

「ジョーク！ ジョーク！ ジョークじゃん！」

って爆笑されても、この顔で言われたら、ジョークか本気かわかんないじゃんね。

そしてカラーのマカロニ揚げたら、



なんか見たことあるスナックになりました。マジであの見たことあるスナックみたいな味。

マカロニ揚げるとこんなことになるとはね。クックパッドまだ載ってないだろこれ。

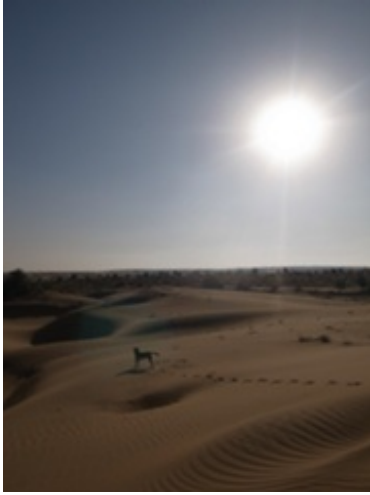
楽しいランチの後はまた苦行。



こういう感じで、大揺れ、開脚、つかまる所無しで不安定な状態で数時間。

ツアー申し込む時に、ラクダ乗り時間が6時間とかめっそうもない事言うから、大幅に縮めてもらったのだが、1時間いや30分で十分こんなもの。

東京にいるとき、どこかの遠い旅の空を思わせてくれたBeirutを聴いて、この風景を満喫しようとするもイマイチ入り込めず、ブルーハーブで自らを戒めようとするなど、様々な努力を試みていたら、なんか本気の砂漠に到着。



砂漠、だねえ。

砂漠、じゃね？ これ？

落書きしたり駆け上ったり駆け下りたりではしゃぎにはしゃいで、あ、そういえば、と、iPhoneを取り出してみると。



電波ガンガン。

チベットのヒマラヤのふもとでも入ったし、この地球上で、携帯の電波が入らないエリアってどれくらいあるんだろうかと、しんみり。

思えば遠くまで来たもんだね。

台湾から始まり、今はなぜだかインドの西の果て。

ここから10キロ先はパキスタン。憧れのフンザを抱えるパキスタン。すぐそこなのになあ……。



夜、暗闇からガイドのババ氏。

ものすごいひょうきんでよい人たちだったが、やっぱり1人じゃなくてよかったと思ったこの瞬間。

帰りはちょっとラクダ乗ったのち、全員ラクダ嫌いになってたのでジープですっ飛ばしてもらい、元いた宿に戻り、宿のバカとケンカして、一緒に出たやよいちゃんと共に投宿した激安の宿がこれアタリ！

人がとても親切、サービス精神旺盛。

夜はフリービール、フリーカレー、フリーチャパティーの宴会におよばれた。

スタッフ、ゲスト、近所の人、総勢20人くらいがごちゃまぜに。



「いいか、これが紙で、石で、ハサミで、石はハサミじゃ切れなくて……」

我々が教示するジャンケンを真面目に練習する大人2人。

真顔でジャンケンダンスを踊る、長身の宿オーナー。

「これが日本で有名なジャンケンダンスだぜ！」

なんつって、日本の文化がねじまがって伝わっていくんだろうね。

この真顔と、この80年代アメリカ映画みたいなファッション、このリズム感の無さ、狙ってできる芸ではない。

ビールもご飯も嬉しいが、この芸がタダで見れたことを心から神に感謝です。

こういう風に、日々の苦痛、めんどくささを浄化していく。

そういうインドです。

作者・情報提供者一覧

【作者・情報提供者一覧】

旅人からの伝言 特集「ロシア」改め「懐かしきソ連」 資料提供

岡本光彰

1956年生まれ。旅の師匠はスナフキン。

素敵なひとりぼっちを味わうために、またいつか何処かへ行くかも...それとも何処へも行かないかも...どっちでもいい。なんでもない普通の日々も結構楽しいし。

エッセイ 旅ときどき・・・ 本文&写真

鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84（100M）
美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

テーマ「タベルトイウコト」 本文

大谷 浩則

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。

旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ～実況！旅人アワー～

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:[@taniwheellie](https://twitter.com/taniwheellie)

一本の糸で世界をつなぐチャリの旅 本文&写真

Connection of the Children

<http://coccococ.web.fc2.com>

田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国大大学院保健体育科専攻。ユーラシア大陸を横断後、ロングディスタンストライアスロン世界選手権出場。人のため、地球のために。ワクワクすることを。一本の糸で世界の子どもをつなぐ旅プロジェクト企画。

一人旅卒業後、ミャンマー留学 本文&写真

yukkichalk

ビール+鯖+笑い=Happyな東京人。

教師→バリスタ→看板描き→OL後、毎年訪問でハマりすぎたミャンマーに留学中。

<http://blog.goo.ne.jp/yukkichalk>

旅で使えるスマホアプリ 本文

ワールドハッカー

元バックパッカー、現在は職業ハッカーをしています。

ブログ『World Hacks!』にて海外旅行関連の情報を毎日発信しています。

<http://bit.ly/WorldHacks>

Brali Vol.1からVol.14まで14連続記事掲載・写真提供。

自炊派の手料理 本文&写真

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を歩んでいたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を周る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010/>

エッセイたびたべ 本文&写真

沢井ブルース

旅する武術家 空手では国際大会優勝経験アリ

現在は東南アジアを中心に放浪及び武者修行中

へたくソな文章ではありますが、気楽に読んでもらってBraliの中の「箸休め」的な存在になれたらなーと思ってます

人生、酒と泪と旅と武術 梵我一如 覚有情

アジア漂流日記 本文&写真

Chibrook

Sigur RosとBeirut巔頂のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

表紙写真

Marrontino

お酒と料理が好きなロンゲのおじさん。

【協力】

向井通浩

JAPAN BACKPACKERS LINK 代表・運営管理者。「ハニートラップ研究所」所長。タイマッサージ依存症。ホワイト餃子。バックパッカー新聞編集長。

<http://backpackers-link.com>

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>

小田奉路

海外起業家's EGG主宰

<http://worldsegg.com/>

<http://archive.mag2.com/0001295311/index.html>

【広告】

カオサン東京ゲストハウス

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

Maison D'hote Amande chez noriko

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com/>

Instituto Cultural Oaxaca

<http://www.icomexico.com/jp/index.php>

【編集後記 Fistera】

【編集後記 Fistera】

このところ歯痛でやめればいいのに、お酒も飲むのでなかなか痛みが引けません。そんな矢先に飲んでる最中に痛みがやってきたので痛み止め薬を飲んだら即落ちました。そしてその後トビました。いい歳して色々な体験を未だに重ねています。いつまでも「ばっかだー！」と言われ続けたい。

●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

○旅イベントや旅ブログなど旅に関する新情報や更新情報をビジュアルで告知するサイト

<http://event.brali.net/>

そして、Facebookページもやってます！ぜひとも「いいね！」してください。Twitterとは別の情報も掲載してますので。

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

さらには！NAVERまとめで旅に関することもまとめてますので、見てくださいね。

<http://matome.naver.jp/mymatome/kurinobu>

Brali Bizからセミナーを始める企画も準備中です。

「旅、インバウンド、アウトバウンド、海外」等のキーワードで独立や週末起業や副業など検討の方向けに、その方面の識者や経験者などを講師に迎え、セミナーを企画してます。

皆様のご感想などもお待ちしております。ちょっとしたメモ程度でもかまいませんので、感じたこと気づいたことなどお送りください。

<mailto:bralimagazine@gmail.com>

<http://brali.net/toukou#.USgiYqW-2So>

次号予告（2013年10月25日発行予定）

次号予告（2013年10月25日発行予定）

- テーマ「世界一周後の就職」
- Brali Biz 「旅」×「ビジネス」
- HANGOVER in the WORLD
- 特集 カンボジア
- エッセイ旅トキドキ・・・
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 連載ミャンマーレポート「一人旅卒業後、ミャンマー留学」
- 自炊派の手料理
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 旅先の変な日本語
- トホホな話
- 個人旅行のコモディティ
- （仮称）体験する旅

記事と情報および写真の募集要項

記事と情報および写真の募集要項

次回のBraliの発行予定は2013年10月25日です。

下記の記事や情報をお気軽にお寄せください。ご応募いただきました中から厳選して掲載させていただきます。

★記事および情報

■特集 カンボジア →2000字以内

■テーマ 「世界一周後の就職」→2000字以内 世界一周後に体験した就職活動とその後。本当に旅してよかった？就職の苦労やコツやアドバイスなど。

■（仮称）体験する旅 →Braliでは、観るだけや行くだけじゃなく体験する旅を推奨します。旅で体験したことを写真とともに記事にして送ってください。例えばスペインでシェリーの注ぎ方マスター、インドで綿の収穫、モンゴルで羊の乳搾り、カナダでメイプルシロップ作り、海外日系企業で職業体験などなど。こんな体験してきたけど、どう？って教えてください。2000字以内。

■個人旅行のコモディティ →なんだかパック旅行でもないのに均一化する個人旅行。旅人の数だけ旅があるはずなのに、なんだかみんな同じ旅してない？「語学留学」、「世界一周」、「旅ブログランキング」のいずれかの内容であなたの考えを記事にしてお送りください。2000字以内。

★写真

■Brali表紙用写真

特集の地域で撮影された写真を募集します。

★随時募集（掲載はいつになるかわかりません）

■旅で使えるデジタルアプリ →旅で役に立ったアプリを教えてください。

■HANGOVER in the WORLD →旅先での酒や酒場にまつわるショートコラムをお待ちしています。

■変な日本語→海外でよく目にする「変な日本語」。写真とどこで撮影したかを教えてください。

■海外支援団体などの団体さん、活動PRや支援募集などBraliに無料掲載いたします。取り組みなどのPRなどにご利用ください。

■海外ボランティアツアーや海外青年協力隊参加などの体験談を大募集しています。旅行では体験できないことや、秘話などをお待ちしています。

■巻末ショートエッセイ→テーマは自由の旅に関する短文を募集します。旅で見たもの、感じたこと、はまったことなど。→1000字以内

記事投稿および投稿に関するご質問はメールにてお願いします。

bralimagazine@gmail.com

投稿フォーム

<http://p.tl/Mi5K>

<http://bralimagazine.blogspot.jp/2011/11/blog-post.html>

奥付

奥付

Brali

●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

○Brali Circus イベントもブログの更新も旅に関することならなんでも拡散

<http://event.brali.net>

●Facebookページ

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

●NAVERまとめ

<http://matome.naver.jp/mymatome/kurinobu>

●mixiページ

<http://p.mixi.jp/brali>

●twitter

<https://twitter.com/bralinet> (Official)

<http://twitter.com/2moratorium>

【Braliの指針】

旅人は、旅をすることにより、その国や地域の人や文化に触れ、体験し、多様な価値観を知り、違いを理解し、享受することができます。

また旅に出てみるのが、日本や居住地などの良し悪しや文化、社会、諸問題を見つめなおすきっかけになります。

そんな機会と経験を無駄にせず社会に活かす旅人の可能性を信じています。

旅人を増やし、旅に出る回数を増やし、旅に出る時間を増やすことを目的の一つとします。

そのためにも旅で得た情報や経験（インプット）を表現（アウトプット）する場と機会をメディアで提供し経験した人とは共有し、経験してない人へは追体験をしてもらいます。

また旅での経験を社会に活かす（例えば仕事や起業あるいは社会貢献やボランティアなど）仕組みづくりを行ないBraliも社会に寄与します。

編集：くりはらのぶゆき

発行：くりはらのぶゆき